

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	市民部国民健康保険課	直通電話	72-3123	事業コード	308010101	課内	3	作成日	平成15年8月11日
	担当者		新関 正典	担当課長			唐澤 治夫	担当部長	飯尾 徹

1 事業のアウトライン

1) 事業名	国保訪問指導事業	開始年度	H11	終了年度	未定						
		最近の事業内容見直し年度	H14								
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 15%;">施策コード</th> <th style="width: 85%;">大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>3080101</td> <td>国保、年金の充実/国民健康保険の充実/健康づくり活動の推進</td> </tr> <tr> <td>3080102</td> <td>国保、年金の充実/国民健康保険の充実/保険財政の健全化</td> </tr> </table>					施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	3080101	国保、年金の充実/国民健康保険の充実/健康づくり活動の推進	3080102	国保、年金の充実/国民健康保険の充実/保険財政の健全化
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目										
3080101	国保、年金の充実/国民健康保険の充実/健康づくり活動の推進										
3080102	国保、年金の充実/国民健康保険の充実/保険財政の健全化										
3) 個別計画での位置付け											

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	重複受診、頻回受診を行なっている被保険者の健康づくりと、多受診等による医療費を軽減するため
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	各被保険者が自身の健康管理に留意し、正しい医療機関への受診習慣を身に付けること 健康づくりを推進し多受診等による医療費を増やさないようにする
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	重複受診者(一定期間に同じ診療科の病院に重複して受診している者)、頻回受診者(1ヶ月の間に一定回数以上病院に受診している者)を道国保連からの給付データにより抽出し、嘱託保健師により訪問及び健康相談を行なう
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	13年度までは北海道国民健康保険団体連合会からの「重複・頻回受診者リスト」(年2回)を抽出データとして利用していたが、タイムラグがあるため、14年度より同連合会より毎月来ていたレセプトの給付データを独自に加工し、より近い時点でのデータで対象者を抽出することで改善を図った
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	近年の医療費の増高については様々な要因があるが、重複・頻回受診も大きな要因の一つとなっている。特に高齢者においては、その傾向が強く社会的にも課題とされているところである。当該事業はそのような社会的な背景から、市(保険者)として対応するべく開始したものである。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	国民健康保険運営協議会にて事業の実施報告をし、医療機関代表・公益代表・被保険者代表・被用者保険等保険者代表で構成されている各委員より質疑・意見等を受けている
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	4,259	3,626	3,424	3,530	嘱託保健師人件費(2名雇用)	3,341
2) その他の間接経費(千円)					保健師研修旅費	8
3) 従事正職員の人件費(千円)	411	415	412		保健指導用パンフレット購入費等	75
総事業費(1~3の合計;千円)	4,670	4,041	3,836		H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)	4,670				国庫補助金	3,836
市民一人当たり一般財源使用額(円)	84					
事務に従事した正職員のべ人数	0.05人	0.05人	0.05人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
訪問指導世帯数(世帯数)	目標値	183	175	184	180 (目標値) 訪問指導対象世帯数(実績値) 訪問指導実世帯数 (説明) 当該指標についてはデータにより保健師が判断した対象世帯数を目標値として設定している。
	実績値	117	103	90	
	達成率	63.9%	58.9%	48.9%	
訪問指導延べ件数(件数)	目標値	110	110	110	110 (説明) 当該指標は実際に訪問する延べ件数の達成率を示すが、嘱託保健師2人工による年間訪問指導数としては過去3年の事業状況から判断して110件が妥当と判断し、目標値として設定した
	実績値	122	112	113	
	達成率	110.9%	101.8%	102.7%	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

5 事業の成果

事業名：国保訪問指導事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
重複・頻回受診による医療費の削減 (千円)	目標値	-	未設定	未設定	未設定	(指標値) 未設定 (説明) 平成13年度に対象者で訪問した者のうち、平成14年度において再度訪問対象者となった者の医療費である	レセプト
	実績値	-	107,037	11,436	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか		訪問指導については、個々のケースが多様であり、その指導について時間を費やすケースも多いが、今後においても地道に継続的な活動により医療費の軽減や市民の健康保持にその効果が具現ができると考える			
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか		重複・頻回受診者に対する当該事業は、医療費の抑制、さらには被保険者の薬害防止など市民の健康管理や保持に対する意識の高揚なども含め、有効な事業であると考え			
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か		保険者として被保険者の健康指導や薬害防止、さらにその結果として医療費の増嵩を抑制していくことで国保財政の健全化に寄与できる事業である			
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか		平成14年度に一部の事務を改善しているが、重複・頻回受診者の実態をより迅速に把握することが必要なため、関係所管部との連携をより深め情報交換や提供が不可欠である			

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味]	[課長評価]	B	[最終評価]	B	(前年度)
A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある		医療費の抑制や適切な保健指導により、被保険者の薬害防止などにも寄与できることから、今後とも適正な受診習慣の習得も含め、推進すべきと考える		課長評価を了承する。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	訪問指導の更なるレベルアップにより、当該事業の目的達成のため指導体制の充実や関係部局との連携を深めつつ、事業の推進を図るべきと考える
最終評価	(担当部長) 課長評価を了承する。

9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統 合		
休・廃止			
上についての説明	関係部局との連携をより深めることにより、当該事業の充実を図ることは可能と考える		